

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-3
景観の保全と創造

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 都市計画課 景観政策室長 糸原 勝則 電話番号 0852-22-5209

事務事業の名称	魅力ある景観の保全創造事業	
目的	(1) 対象	県・県民・市町村・事業者
	(2) 意図	地域性豊かな景観を守り伝えるとともに地域にあった魅力ある景観づくりを目指す。
事業概要	平成3年に「ふるさと島根の景観づくり条例」を公布し、景観施策を実施してきたが、平成16年に景観法が制定されて以降は、市町村が景観行政団体（景観法に基づいて良好な景観形成のための施策を実施していく自治体）に移行し、独自の景観計画（景観に関するまちづくりを進める上で基本となる計画）を策定することを支援する。 また、市町村、県民及び事業者が、景観づくりを進める際に、技術的な助言、指導等を行うとともに、県民の景観に対する意識啓発を図るため、普及啓発事業を行う。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 景観計画策定市町村数（累計）	目標値		8.0	9.0	10.0	11.0	市町村
		取組目標値						
	式・定義 景観計画を査定した市町村の数	実績値	7.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名 景観重点地区数（累計）	目標値		35.0	37.0	39.0	41.0	地区
		取組目標値						
	式・定義 市町村が景観計画で特に重要と定める地区の数	実績値	33.0					
		達成率	-	-	-	-	-	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	11,204	15,850
うち一般財源 (千円)	173	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成27年度末での景観行政団体数は9市町（松江市、浜田市、出雲市、益田市、大田市、江津市、奥出雲町、津和野町、海士町）であるが、この内、景観計画策定済みの団体は7市町（松江市、出雲市、益田市、大田市、江津市、奥出雲町、津和野町）である。
平成27年度末時点で、美しい町並みづくりや環境美化活動などの景観形成住民協定締結は64件、築地松の景観保全住民協定締結は158件である。
平成27年度に実施したしまね景観賞へは117通の応募があり、11件の表彰を行い、平成5年の同賞応募開始から平成27年度末までの応募累計は、2,934通となった。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成27年度中においては、新たに益田市が景観計画を策定した。
また、景観形成住民協定が浜田市において、新たに1件締結された。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

景観法の趣旨からも、地域における良好な景観形成や景観を活かしたまちづくりは、住民に最も身近な基礎的自治体である市町村が、その中心的な役割を担うことが望ましいが、まだ景観行政団体への移行が進んでいない市町村が多い。
また、しまね景観賞への応募者数が減少している状況などを考えると、県民、事業者等の景観に対する意識低下が懸念される。

②困っている状況が発生している「原因」

市町村における厳しい財政事情や人員体制等から、なかなか景観行政団体への移行が進んでいないと考えられる。
また、しまね景観賞の応募者数の減については、PR不足などもあるとは考えられるが、既に24回の開催を行ってきており、その目的・方法などを再検討していく時期でもあると考えられる。

③原因を解消するための「課題」

- ・市町村に対する財政的支援、技術的支援など
- ・市町村との連携強化
- ・しまね景観賞の制度等の再検討

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・市町村が地域の特性に応じた景観行政を行えるように、景観行政団体への移行について指導助言を行うほか、基礎調査費を助成するなどの支援を行う。
- ・景観計画の策定中である景観行政団体に対しては、景観計画策定費の助成や、実行委員会やワークショップ等への県としても積極的に参加して指導助言を行う。
- ・市町村の理解と連携強化を図るため、景観行政担当者会議等を開催して情報交換を図る。
- ・県としては、市町村の景観行政団体への移行を進めるとともに、広域的調整を図りながら、併せて全県的な普及啓発を推進していく。
- ・しまね景観賞については、平成29年度で第25回目の節目を迎えることもあり、そのあり方や方法等について再検討していく。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。
・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）